

団体名	評価理由	採否
株式会社デザインコンパス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学祭での受注実績を含め、科学系デザインの経験が豊富である点に関しては評価できる。</li> <li>・函館地域の地域性や、社会問題に関連したストーリーや話題を組み込むという点でも妥当であると考えられる。</li> <li>・内容について、科学的な観点でのサポートは必要であると考えられる。</li> <li>・デザイナーが大学教員と兼業しており、特に本年は新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う環境変化による納期遅延が強く懸念されることについては、できる限りの改善を望む。</li> </ul>	採択
A社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的に正確な表現の担保が求められる本企画において、科学系デザインの経験が豊富でかつ、専門性の高い人員が確保できている点は評価できる。</li> <li>・申請書類の提出、函館地域の地域性や科学技術との関連付けも適切であり、企画が適正に遂行されることが期待できる。</li> <li>・今までの科学祭ではみられなかった斬新なビジュアルで、これまでにリーチできなかった層に訴求できる可能性が感じられる。</li> <li>・科学祭の参加対象は子どもから大人までと幅広いことから、キャラクターを用いたソフトなデザインは、これまでの科学祭企画展のインフォグラフィクスなどを活用した、クールな大人向けの表現とずれがある。</li> </ul>	次点
B社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短納期が求められる本企画において、科学系デザインの経験が豊富でかつ、余裕のある人員が確保できている点は評価できる。</li> <li>・申請書類の提出が適切であり、企画が適正に遂行されることが期待できる。</li> <li>・函館地域の地域性や科学技術との関連付けも適切ではあるものの、サイエンス・サポート函館の活動指針に掲げている「身近にある科学をみつけ、研究室にある科学を持ち出し、科学と縁遠い人たちに接近する」ために、学術発表のポスターと一線を画するクールな大人向けの表現となるよう、表現の改善が必要である。</li> <li>・函館の高校生がアプリ開発したことに触れるだけにとどまらず、例えば個人の行動履歴がビッグデータに組み込まれるに伴う社会問題との関連付けが望まれる。</li> </ul>	次々点
C社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学系デザインの経験が豊富である点に関しては評価できる。</li> <li>・函館地域の地域性や、社会問題に関連したストーリーや話題を組み込むという点では大幅な見直しが必要である。</li> <li>・過去にデザインした他所の科学フェスティバルのイメージが強く出すぎ、さらに今回のテーマと直接関係ない宇宙に力点が入ってように見えることから大きな誤解を招く懸念もある。</li> <li>・特にサイエンス・サポート函館の活動指針に則っていることを強く意識してデザインそのものを見直す必要がある。</li> </ul>	不採択